

【海外拠点】山口銀行釜山支店、山口銀行青島支店、山口銀行大連支店、山口銀行香港駐在員事務所

【現地駐在】TTB 銀行(タイ・バンコク)、日本政策金融公庫バンコク駐在員事務所(タイ・バンコク)

HD 銀行(ベトナム・ホーチミン)、明倫国際法律事務所ホーチミンオフィス(ベトナム・ホーチミン)



【ベトナム】

ベトナムの証券市場・ベトナム株式投資

1. はじめに

世界を震撼させたコロナ危機は、中国・上海で長期ロックダウンが行われるなど、未だ完全な収束には至っていません。

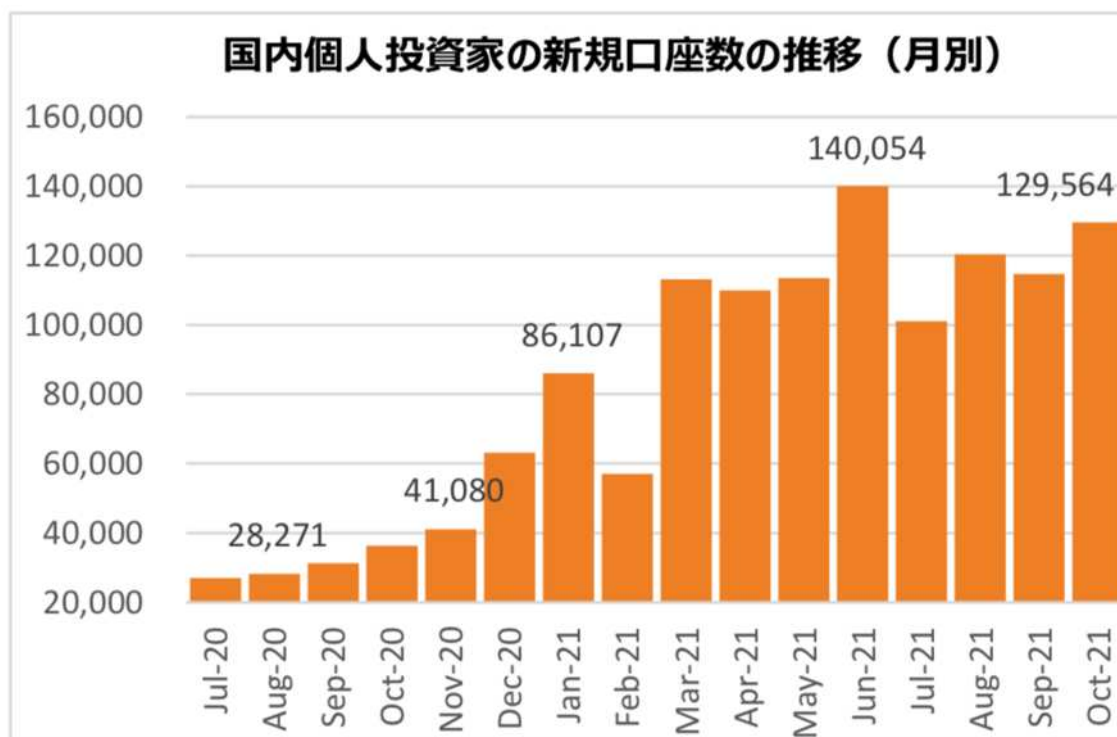
一方で、東南アジアでは移動の制限が緩和され通常の生活を取り戻しつつあります。ベトナムに関しては、政府が 2021 年 3 月より新型コロナワクチン接種キャンペーンを開始。2022 年 1 月には成人の 100%が 1 回目の接種を完了(2回目接種は 93%完了)しました。国民のワクチン接種が順調に進んだため、2022 年 3 月 15 日から外国人向けに観光市場を開放。5 月 15 日より入国前の新型コロナウイルス検査が不要となり、入国後も健康申告や再検査、隔離の必要もなくなったため、観光やビジネスの往来が急激に増加しています。

さて、コロナパンデミックで、観光や出社・出張などの移動が止まり、在宅中心の生活に制限された一方、ベトナム証券市場は活発になりました。経済の悪化を避けるため各国政府は金融緩和を開始、世界にマネーが溢れ投資ブームが到来しました。日本でも若者を中心に米国株投資ブームが起これ、証券口座の新規開設数は急増しました。ベトナムも例外ではありません。今回はベトナムの株式投資ブームの原因や、ベトナム株の魅力についてご紹介致します。

2. ベトナムでも投資ブーム到来

筆者がベトナムに駐在を開始した 2017 年当時、金融関連で働くベトナム人でも株式投資をしている人は稀で、株式投資の話題も少なかったのですが、近年は頻繁に株式市場の情報交換が行われています。

データにも表れており、キャピタルアセットマネジメント社の資料によると、2021 年 1 月から 10 月の期間に、新規に開設された個人投資家の証券口座数は月平均で 10 万口座を超え、約 108.6 万口座となりました。これは 2020 年通年の 2.8 倍の水準であり、かつ 2017 年から 2020 年 4 年間の総数をも上回っています。



出典：キャピタルアセットマネジメント株式会社

ベトナム人の間で、株式投資ブームが起きた理由は、5点あると筆者は考えます。

まず第1に最も大きな理由が、単純ですが「株価が上がった」からです。世界の金融緩和マネーは、先進国の株式市場だけでなく、ベトナムなど新興国の株価も押し上げました。株価の上昇に伴い、家族や友人、知人など身近に株式投資で儲けた人が増加。人間の心理として、周りで成功者を見ると自分も投資してみたいと考えるのは自然です。

【VN 指数（ベトナム株価指数）】



出典：ブルームバーグ

ベトナムの代表的な株価指数 VN 指数（日本の TOPIX）は、コロナ危機発生時の 2020 年 3 月に一時的に 700 ポイントを下回る水準まで下落しましたが、以降、急激に上昇を続け 2022 年には一時期 1,500 ポイントを超えました。

多くの新規個人投資家が株式市場に参入して活発に売買を行った結果、株価指数だけで 2 倍以上の上昇となりました。

2 点目の理由は、世界共通ですが在宅勤務が加速したことに伴うものです。ベトナムでは、コロナ危機直後の 2020 年 3 月から 2021 年 9 月末まで複数回に渡る外出禁止を伴うロックダウン措置が取られ、厳しい規制や移動制限が行われました。その間に、インフラ関連を除く、ほぼ全ての職種で在宅勤務がスタンダードとなりました。ロックダウンが行われていない現在でも、多くの企業が在宅勤務を認めています。在宅勤務中に時間ができたこともあり、巣籠もり投資が増加しました。

3 点目の要因として、投資インフラの整備が進んだことが挙げられます。ベトナムは人口が 1 億人近くいるのですが、その約 60%が 30 歳以下で、平均年齢も 30 歳です。彼らは小売店での支払い、ネットショッピング、食事配達、配車、各種予約・手続きなど生活の大部分をアプリ・WEB 上で完結させています。

近年、ベトナムの大手証券会社もアプリや WEB 上で株式取引が完結できるように整備を進め、快適に証券取引ができる環境が整いました。スマホで手軽に投資できるようになったタイミングで、在宅勤務が重なり、若者の証券投資や仮想通貨購入を強力に後押ししました。

SSI MOBILE TRADING



出典:サイゴン証券 HP

4 点目の理由として、外国人投資家から資金流入が増加して株価上昇のきっかけになったことも見逃せません。ベトナムでは企業を外国人投資家から守るという建前のもと 2015 年 9 月まで、外国人投資家の株式保有比率の上限を 49%に抑えていました。2015 年 9 月以降は、規制が徐々に緩和され、銀行業など国家の根幹に係る一部の事業を除いて外国人がベトナム企業の株式を 100%保有できるようになりました。2016 年頃まで、外国人投資家の資金流入はほぼ均衡していましたが、2017 年以降大幅な流入超に転じています。

ベトナム株式に投資するファンドや投資信託も増加傾向にあり、今後もこの状況は続く
と予想されています。外国人投資家、個人投資家双方がベトナム株を買ったことで、株価
上昇に拍車がかかり株式投資ブームを後押ししました。

最後の理由は、預金金利の低下です。ベトナム企業の資金需要は旺盛で、銀行は貸出資
金を確保するため 1 年定期預金で 7%前後の高金利を設定していました。しかし、コロナ危
機のロックダウンで企業業績が悪化、設備投資ニーズも急速に萎みました。それに合わせ
るように、銀行も資金を集める必要がなくなり定期金利も 6%前後に低下。日本人からする
と、まだ非常に羨ましい金利水準ですが、高金利に慣れているベトナム人個人投資家が、
より高い利回りを求めて証券市場に殺到しました。



筆者撮影

以上のように、多くの要因が重なったことで、ベトナムでの投資ブーム、株価上昇
が起きましたが、成熟した投資家はまだ少なく、投機的要素も強い証券市場なので、
今後もブームが継続するかどうかは株価次第と言えます。

3. ベトナム証券市場

ベトナム証券取引所は政治の中心で首都のハノイ、経済の中心で南部の主要都市ホーチ
ミンの 2 箇所にあります。証券取引の歴史は浅く、ホーチミン証券取引所の開設が 2000 年、
ハノイ証券取引所の開設が 2005 年になります。

ホーチミン証券取引所に上場する企業数は現在 415 社、上場する企業全体の時価総額は
約 27 兆 6000 億円(2022 年 5 月末現在)です。

ハノイ証券取引所に上場する企業数は現在 348 社、上場する企業全体の時価総額は約 1 兆
9000 億円(2022 年 5 月末現在)です。

上場企業数に大きな違いはありませんが、時価総額では 14 倍以上の開きがあります。東京が政治と経済両方の中心である日本と違い、ベトナムは同じ共産圏で政治の中心(北京)、経済の中心(上海)を分けている中国と似ていると言えます。

ホーチミン、ハノイに上場する全企業の時価総額約 30 兆円は、日本国内トップのトヨタ自動車(34 兆 7000 億円)1 社にすら及ばないことを考えると、まだまだ伸び代のあるマーケットだと言えます。

4.ベトナム株式投資の魅力

【ベトナム時価総額 TOP10】

企業名	業種	時価総額(円換算)	国営・民営
ベトコム銀行	銀行業	2 兆 394 億円	国営
ビンホームズ	不動産業	1 兆 6960 億円	民営
ビングループ	不動産業	1 兆 6541 億円	民営
ペトロベトナムガス	石油・ガス業	1 兆 1631 億円	国営
ベトナム投資開発銀行	銀行業	9991 億円	国営
ホアファットグループ	製鋼業	8760 億円	民営
マサングループ	食品業	8609 億円	民営
ノブランド不動産	不動産業	8477 億円	民営
ビナミルク	乳業	8371 億円	国営
VP 銀行	銀行業	7761 億円	民営

※2022 年 5 月筆者作成時点の時価総額

ベトナムは共産国ということもあり、国営企業がメインと思われがちですが、近年、効率化を進める民間企業の業績が好調であり、株式市場でも存在感を示しています。時価総額の上位企業 TOP10 も民間企業が過半数を占めています。

現在のベトナム経済は、日本の 1970 年代～1980 年代に例えられることがあります。その当時の日本株式市場と同様に時価総額の上位企業を銀行、不動産、製鋼業が占めています。成熟国家に住む私たちからすれば、次にどのような産業の株式が上昇するか予想しやすいとも言えるでしょう。

5. おわりに

英国ワールドデータラボ(World Data Lab=WDL)の調査によると、ベトナムは 2030 年までに中流階級の人口が最も増加する国の 1 つになると予想されています。同調査では、中流階級の人口が 5,600 万人になると予想されており、消費が活発な中間層の拡大は、今後もベトナムの経済成長に大きく寄与するでしょう。経済の成長は株式市場に新たな富をもたらすため、今後もベトナム証券市場には注目が必要です。

山口フィナンシャルグループでは、ベトナムをはじめとする海外への事業展開を検討されているお客様のサポートを行っております。ベトナムには、法律事務所及び現地銀行に出向者が駐在しており、ベトナムでの証券口座開設に関する総合的なサポート、ベトナム企業情報の提供が可能です。ベトナムに限らず、海外への事業展開に少しでも興味をお持ちの方は、お気軽にお取引店、または山口フィナンシャルグループ営業戦略部法人事業室海外事業グループまでお問い合わせください。

(山口フィナンシャルグループ 海外出向【ベトナム】 中村 健太郎)

【参考文献】

キャピタルアセットマネジメント株式会社

http://www.capital-am.co.jp/research/pdf/2021/vnm_news_20211208_1.pdf

ブルームバーグ VN 指数株価チャート

<https://www.bloomberg.co.jp/quote/VNINDEX:IND>

VIET KABU HP

<https://www.viet-kabu.com>

サイゴン証券オフィシャルホームページ

<https://www.ssi.com.vn/en/individual-customer/ssi-mobile-trading>

ベトナムニュース総合サイト VIETJO

<https://www.viet-jo.com/news/economy/210907161146.html>